
THE 不良 ~高校生編~

夜市

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

THE 不良 〜高校生編〜

【Nコード】

N5976G

【作者名】

夜市

【あらすじ】

男子高である夜気高校。不良しかない学校で、いつも何かと大忙し。これは、そんな夜気高の不良達の日常をテーマにした、ギャグ小説。一話ずつ話が異なります。（一話完結）力不足ですが、頑張っておもしろくしたいと思うので、感想やアドバイがあれば大いに大歓迎です。よろしくおねがいします。

1 結局はこうなる運命だ。（前書き）

登場人物：●1：竹原雅樹たけはらまさき夜気高校二年生。逆立てた金髪と耳に付けた3つのピアスが特徴的。あだ名はハリネズミ。●2：大門勝夜おおかどすぐる夜気高校二年生。とにかく、赤いモヒカンヘアが特徴的。頭が弱い。あだ名はモヒカン。

1 結局はこうなる運命だ。

これは、あるどこにでもありそうなファミレスでの出来事。

「最近、平和だよな。」

「ああ、そうだな。」

ファミレスの窓の外を眺めながら、俺（竹原雅樹）と親友の大門（すくろ）は雑談していた。

特に何もするわけでもなく、ただひたすらに、道を通る車の台数を眺め、暇を持て余している。

「つまんねーよ。」

だが、十数台数えた後、勝は顔をしかめながら、氷の溶けて水っぱいコーラーをストローで飲んだ。

——うわっ、そんなのよく飲めるな……。

それを見ながらそう思ったが、あえて口に出さない事にした。そして少しの間、俺と勝の間に沈黙が流れる。

別に喧嘩をしているわけでもない。ただ、話の話題が無いだけだ。いつも一緒にいるし、相手の事をイヤでも知り尽くしているわけで、特に取り立てて話す事もない。

だから、やはりこうやって窓の外の車を眺めるしかないのだ。
もちろん、おもしろくはない。

「…なあ、雅樹。」

「んあ？」

車を数えた台数が、丁度二十台に達した頃、勝が不意に口を開いた。

急だった為、間抜けな声を出してしまった俺。顔もマヌケだっただろっか？

…まあ、どうでもいいけどな。

「お前、乱闘起こせよ。そしたら、このスグP様がすぐに解決してやつからよ？」

「はあ???」

でも、こちらはよろしくない。

勝は、親友の俺に（詳しく言えば）乱闘事件を起こして騒ぎを作れと言っただ。

しかも、

スグP様ってなんだ!?

親友ながらダセエ。

つか、ネーミングセンスねーな。

「だからあー…、乱闘起こせつつてんだよ!!直ぐにスグP様が解決してやつから!!」

バンバンバンとテーブルの上を叩く勝。当然、他の客の視線が一気にこちらに向いた。
嫌な視線が背中に突き刺さる。

やめろ!!

やめてくれー!!

ハズいからやめてくれー!!

っーか、

スグPって何なんだよ！！

というのが、今の俺の心境で。

この場から逃げ去りたい度、100パーセントである。

「あ？ふざけんな。やんねーよ？マジ、パクられんのかめんどく
せーし。」

しかし、とりあえずこの状況を打破する為にそうは言ってみたもの
の、

「だーかーらー、スグPが解決してやるって言ってるだろーが！！
この、ハリネズミ！！」

「ハリ…テメーよくも！！表に出ろや！！」

「上等じゃあ！！血の雨降らしたるわボケエ！！」

結局、打破する事が出来ず、表で騒ぎを起こした俺達は通報され、
後に来たサツに取り押さえられ補導された。

そして、帰り道。

「つーか、スグPって何？」

「スゲーグレードパーフェクト。」

「……アホか。」

「ああ！？バカやろー！！これ考えるのに一週間もかったんだぜ
！？ふざけんなー！！」

「いや、お前がふざけんな。」

「テメー上等じゃねーか！！」

「お？来るか？いつでも来いや！！モヒカン！！」

また乱闘になった。

終わり

2 無敗伝説（前書き）

登場人物：●1：相田隼人^{あいだはやと}夜気高校一年生。金髪のリーゼントと口元のホクロが特徴的で、自分は強いと日々思い込んでいる。あだ名はアイーダ。●三谷^{みたにりく}陸夜気高校一年生。白い肌にクリクリとした目。癖毛のある茶色い可愛い髪が特徴的。校内一、幼さ顔。とにかく毒舌。そして、色んな人の情報を握っている。あだ名はりっ君。裏のあだ名は毒舌魔王。

2 無敗伝説

俺の名前は相田隼人。あいだははやと

今までの喧嘩は、すべて無敗。

誰にも負けた事なんざねえ。

オヤジにも、オフクロにも、妹にも負けた事なんざねえ。

「でもこの間、アッキーラに負けてたよね。フルボッコにされてたよね。」

「え？お前見てたの？」

「うん。君がごめんなさいって言って土下座する所バッチリとビデオに撮ったよ。焼き回ししようか？」

「え！？」

そう言ってるっ君はビデオテープをポケットから取り出した。

マジかよー！

どうやら、この間アッキーラこと長谷川明はせがわあきひに喧嘩売って負けた所をリッ君みたにりく（三谷陸）に見られていたらしい。

最悪だ。

よりもよってコイツに見られるとは。

俺の人生

終わった。

りっ君は、チクリの達人として有名だから、直ぐにみんなに知れ渡ってしまっ！！

俺の無敗伝説がああああ！！

「大丈夫だよ。そもそも君に、無敗伝説なんかないから。中学の時、子犬に負けてたよね？今でも母親や妹さんからパシリにされてるよね？」

と可愛い顔でサラリと言うつりっ君。

なんで知ってんだああああ！？

なんで、俺がオフクロ達からパシられてんの知ってんだ！？

「カカア天下だよね。」

なんで知ってんだ！？

っーか、

なんで心の声が聞こえてんだよ！？

「僕達親友でしょ？だから、あたり前だよ。僕は君の隣でずっと見

てきたんだから。」

とにっこり笑うりっ君。

「陸……!!」

俺はその言葉に感動して、りっ君を抱きしめた。
すると、自然と目から熱いモノが溢れ出てきて、りっ君の肩にシミを作る。

無敗を求めるうちに、俺は大事な事を忘れていたのかもしれない。
”友情”という大切な何かを見落としていたのかもしれない。

「ハヤトルネード。」

りっ君は俺から離れると真剣な眼差しでこちらを見た、
そして、言った。

「クリーニング代出せ。」

と。

つか、

ハヤトルネードって…

何？

終。

3 暴君と紙とペンと（前書き）

登場人物＞br<・1・はがそつじろう芳賀総次郎夜気高校三年生。黒のオールバックヘアーとつり上がった眉毛が特徴的。とにかく、キレると暴れます。あだ名は、ソージロー。ハガチヨップ暴力おじさん。

3 暴君と紙とペンと

カシャー—

パリン—

「オラア！！サツサとかかってこいや！！」

教室の中で暴れまわる夜気高校の暴君”はがそうじろう芳賀総次郎”は、授業中にも関わらず、先程から窓の外へイスやら机やらを放り投げている。

「はっ芳賀君、やっやめなさい！！」

「あ？やんのかコラ！！」

「い…いえ、すいませんでしたあー！！」

脅えながらも必死に教師は止めに入っていたが、彼が激しく睨み付けると脅えてすくみあがってしまった。

「…なら話かけんなや！！」

結局は、誰も彼を止めることなど出来ないのだ。

そもそも、なぜこんなに彼が機嫌が悪いかというと、理由が3つある。

一つ目。

昨日、長年好きだった幼さなじみの女に告白したら、

「私、お父さんしか好きになれないの。」

と言ってふられた事。

二つ目。

今日の朝、髪型が上手く決まらなかった事。

三つ目。

売店行って、

「焼きそばパンくれ。」

て言ったら売り切れてて、売店のオバチャンの口元見たら青のりが付いていた事。

「何でこんなについてないんじゃないじゃああああ!!」

窓の外に向かって総次郎はおもいつきり叫んだ。

「それは、お前がそう思い込んでいるからだろ。もっと大人になれ!!」

すると、突然後ろから声がした。総次郎は振り向き驚く。

「あつ…あんたは!!」

そう、その声の主は、立派なリーゼンヘアで、かつこいいサングラスをかけていて、この学校の生徒の中心的存在。

その名も…

「校長!!」

である。

「総次郎。お前の人生はまだ始まったばかりだ!!諦めるな!!少年よ!!」

「こ…校長!!俺…俺間違ってた!!すいませんでした!!」

総次郎は目から熱いものを流し、その場に崩れるように座り込んだ。

「うむ。分かればいい。では、約束してくれるな?人生を大切にすると。」

「…はい!!」

「では、その証拠にコレにサインしてくれ。」

「はい!-!」

そう言つて総次郎は、渡された紙にペンでサインし、再び校長に渡す。

「じゃ、これ請求書だからちゃんと払うように。」

「じゃつ。そういうことだから。」
と校長は去つていった。

そして、その場に残つたのは、感動でもなんでもなく、ただの窓ガラスと机の請求書だけだった。

「なんだこれ？」

総次郎は一筋の涙を流した。

終。

3 暴君と紙とペンと（後書き）

感想やアドバイ스가あつたらお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5976g/>

THE 不良 ~ 高校生編 ~

2010年10月12日00時47分発行